# 5年 4月 国語科

**領域** C読むこと

**単元名** 登場人物どうしの関わりや心情をとらえて感想を交流しよう

**教材名** 「なまえつけてよ」　光村図書

**執筆** 熊本大学教育学部附属小学校教諭　中尾聡志
**編集委員** 文部科学省教科調査官　大塚健太郎
茨城大学教育学部附属中学校副校長　菊池英慈

**年間指導計画**

| | |
|---|---|
| 4/5月 | なまえつけてよ |
| | きいて、きいて、きいてみよう |
| 6/7月 | みんなが過ごしやすい町へ |
| | 見立てる |
| 8/9月 | みんなが過ごしやすい町へ |
| | たずねびと |
| 10/11月 | よりよい学校生活のために |
| | 固有種が教えてくれることあなたは、どう考える |
| 12/1月 | 想像力のスイッチを入れよう |
| | この本、おすすめします |
| 2/3月 | 提案しよう、言葉とわたしたち |
| | 大造じいさんとガン |

## 1 単元で付けたい資質・能力

**①身に付けたい資質・能力**

登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える力を育成します。特に五年生では、描写（「物事の様子や場面、行動や心情などを読み手が想像できるように描いたもの」）に着目しながら読む力を育てることが重要です。また、物語によっては、登場人物の心情が、直接的に描写されず、「登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現」される場合もあります。このような表現の仕方にも注意して、想像を豊かにしながら読むことを目指します。

**②言語活動とその特徴**

本単元では、「登場人物の心情や登場人物同士の関わりの変化について読んだ物語の感想を交流する」という言語活動を位置付けます。この活動を楽しむためには、自分なりに感想をもつことが重要です。そのことを子供たちが理解した時、物語を主体的に読み解こうとする姿が生まれると考えます。

また、身に付けさせたい資質・能力の育成は、感想をもつために物語を読む中だけでなく、感想を交流する中でも行わなければなりません。そのためには、交流する感想の質を高める必要があります。そこで、子供たちがもつ感想を「登場人物の心情」と「登場人物同士の関わりの変化」について読んだものとなるように言語活動を設定していきます。

一つ目の「登場人物の心情」についての感想をもつには、「登場人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などを通して、暗示的に表現された内容」を読み取る必要があります。二つ目の「登場人物同士の関わりの変化」の感想をもつには、変化する前後の行動や会話を結び付けて読む必要があります。このような読みによって、自分なりの感想をもてるようになるでしょう。

**指導事項**
**〔知識及び技能〕（1）オ**
**〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）イ・オ　言語活動例イ**

## 2 単元の展開（4時間扱い）

| 次 | 時 | 主な学習活動 |
|---|---|---|
| 一 | 1 | ◎**学習の見通しをもち、学習計画を立てる。**<br>・感想を交流する活動を楽しむためには、自分なりの感想をもつ必要があることを理解し、自分なりの感想をもつために、物語の構造と内容を読み解こうとする態度をもつ。**（アイディア①）**<br>**学習課題**　登場人物の心情や登場人物同士の関わりの変化について読んだ「物語の感想」を交流しよう。 |
| 二 | 2・3 | ◎**登場人物の心情や相互関係の変化についての感想をもつ。**<br>・春花と勇太の心情を読み解くことのできる叙述を物語全体から見つけ、それぞれの心情について読み解いた内容をノートにまとめる。また、それらを基に、二人の相互関係の変化について の感想をまとめていく。**（アイディア②）** |
| 三 | 4 | ◎**物語を読んで得た登場人物の心情や相互関係の変化についての感想を交流し、単元の学びを振り返る。****（アイディア③）** |

## アイディア① 自分なりの感想をもつために、物語の構造と内容を読む

主体的な学び

子供たちにとって物語の感想を交流する活動は楽しいものです。けれども、単に感想を話し合うだけでは、資質・能力は身に付きにくいです。そこで、子供たちのもつ感想の質を高めるために、学習課題の中に、指導事項である「構造と内容の把握」の力を明示します。物語の感想をもつために登場人物の心情を読むにはどうしたらよいのか、人物同士の関わりの変化を読むにはどうしたらよいのかを、既習の物語教材を使いながら理解させていきます。さらに、この「構造と内容の把握」の力が身に付くと、自分たちの読書生活にどのようなプラス面の成長が生まれるのかも語っていきます。

このようにして、学習課題に明示された指導事項を、教師と子供とで共有することで、子供自身が単元を終えた時にどのような姿になっておくとよいのか理解でき、教師もその姿に向かって意識した手立てをとることができるようになります。このような指導により、子供たちは物語を読むことに主体的になり、粘り強く学んでいきます。

読むこと⑴イ「構造と内容の把握」

**学習課題** 登場人物の心情や登場人物どうしの関わりの変化について読んだ「物語の感想」を交流しよう。

**「構造と内容の把握」の力を身に付けると、**

①これまで立ち止まることができていなかった物語の描写の意味ついて考えて読むことができるようになる。そのため、今まで以上に物語を楽しむことができるようになる。

②登場人物の関わりの変化を基に、物語を読むことができるようになる。そのため、物語全体から題名の意味や心に残ったことを考えることができるようになる。

## アイディア② 登場人物の心情や相互関係の変化について読み、自分なりの感想をまとめる

対話的な学び

自分なりの感想をまとめるためには、文章の内容や構造を捉えて理解したことと、既有の知識とを結び付けて考えることが必要です。学習材である「なまえつけてよ」では、子馬がよそにもらわれることを知った前後で、春花と勇太の関係が大きく変容します。その二人の変容は「紙で折った小さな馬」の描写や「春夏の勇太に向けた行動」の描写に表れています。そのような描写を、ノートに表の形でまとめていくと、子供たちは構造と内容の把握の力を使って物語を読み、読んで理解したことを基にして、自分なりの感想をもつことができます。

しかし、子供がもった感想は一人よがりな部分があります。そこで、実際に感想交流の前に、ペアやグループで話し合う場を設定し、子供たちに自分の感想を見つめ直させていきます。子供たちは、自分なりの感想をもちたいと思うと同時に、みんなを納得させる感想ももちたくなるものです。そのような感想がもてるよう、自分なりの感想をプレ交流させ、客観的に自分の感想を見つめ直させていきます。

| 春花の勇太に対する心情の変化がわかる表現 | 勇太の春花に対する変化がわかる表現 |
| --- | --- |
| ・不格好だけれど、たしかに馬だ。<br>…これまでの勇太の姿と重なる。<br>・らんぼうなぐらいに元気のいい字が、おどっている。<br>…今まで知らなかった勇太の姿に気付いた。心の中はとても優しい人なのでは。<br>・ありがとう。春花は、心の中でつぶやいた。<br>…勇太の本当の姿がわかった気がして、ありがとうを心の中で言えるようになった。 | ・二人とも、こまったような顔をして、春花の方をじっと見ていた。<br>…目をそらしていた勇太が、じっと見ている。春花に伝えたい思いがある。<br>・らんぼうなぐらいに元気のいい字が、おどっている。<br>…勇太の春花を元気づけたい思いが感じられる。昨日の春花の落ち込んだ姿から、何とかしてあげたいと思ったのだと考える。自分も友達に同じ思いをもったことがある。 |

## アイディア③ 自分がもつことのできた物語の感想を交流する

深い学び

感想交流の際には、互いの感想の相違点を明らかにするという視点をもたせて活動させることが重要です。違いが見つかれば、違いが生まれた理由を明らかにするために、どの描写を基に春花と勇太の心情や相互関係についての感想を持ったのかを交流する学びが生まれます。また、相違点だけではなく、互いの感想のよいところを見つける学びも必要です。そのような学びの中でこそ、子供たちは再度自分の感想を見つめ直し、言葉による見方・考え方を働かせ、より深い感想をもつことができます。

例えば、題名の「なまえつけてよ」についての感想です。この言葉は、題名であると同時に、勇太の春花に対する思いが込められた大切な叙述となっています。このような叙述を、自分とは異なる叙述同士の結び付け方や、言葉による見方・考え方の働かせ方によって創られた感想と出合うからこそ、自分なりの感想を再度見つめ直し、より質の高い感想に創り変えようとする学びが生まれます。

最後、春花が「ありがとう」を心の中でつぶやいたのは、これまで伝えられていなかった勇太の気持ちが伝わったからだと思いました。

勇太の春花への気持ちは、勇太が作った小さな馬の折り紙の描写にも表れているね。不格好なことや乱暴なくらい元気のいい字が裏側に書かれていたものね。

春花がうれしかったのは、口に出さなかった思いを、勇太が感じてくれたからだと思う。そのことが、勇太の小さな馬の折り紙から伝わったんだよ。最後の「ありがとう」はそういう意味なんだと思う。

二人の関係って、子馬がもらわれていった前後で変わっているね。それは二人の描写をつなげて読んでいくと、たくさんの読み方ができて、感想を交流することで自分の考えが広がっていくね。

# 5年 5月 国語科

**領域** A話すこと・聞くこと

**単元名** 話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう

**教材名** 「きいて、きいて、きいてみよう」 光村図書

**執筆** 熊本大学教育学部附属小学校教諭 **溝上剛道**

**編集委員** 文部科学省教科調査官 **大塚健太郎**
茨城大学教育学部附属中学校副校長 **菊池英慈**

**年間指導計画**

| | |
|---|---|
| 4/5月 | なまえつけてよ |
| | **きいて、きいて、きいてみよう** |
| 6/7月 | みんなが過ごしやすい町へ |
| | 見立てる |
| 8/9月 | みんなが過ごしやすい町へ |
| | たずねびと |
| 10/11月 | よりよい学校生活のために |
| | 固有種が教えてくれることあなたは、どう考える |
| 12/1月 | 想像力のスイッチを入れよう |
| | この本、おすすめします |
| 2/3月 | 提案しよう、言葉とわたしたち |
| | 大造じいさんとガン |

## 1 単元で付けたい資質・能力

### ①身に付けたい資質・能力

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力を育成します。

教科書の『たいせつ』に示されているように、聞き手は話の要点をまとめたり内容を確認したりしながら尋ねること、話し手は聞き手の質問から、相手は何を知りたいのかを考えて話すこと、記録者は話の中心を考えながらまとめることを意識して、「きくこと」について考えていきます。

### ②言語活動とその特徴

四月は、多くの学級で自己紹介をしたり、自己紹介カードを書いたりして、「好きな○○」などについて互いに知り合う機会があるかと思います。しかし、それらは「広く浅く」という傾向が強いでしょう。そこで、互いのことをもっと知り合うために「友達にインタビューをしてその人の人柄を引き出し、それを紹介し合う」という言語活動を設定します。ただし、単にその言語活動を提示するだけでは、今求められる「主体的な学び」、具体的に言えば「粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとする」学びは生まれません。そのような学びの実現には、「どんな紹介にしたいか」「何のためにインタビューや紹介の活動をするのか」など、活動のイメージや目的を具体的にしておくことが不可欠です。例えば「みんなが知らない魅力を引き出そう」「その友達ともっと話してみたくなるような紹介をしよう」などの思いを共有しておくと、「この尋ね方ではまだみんなをあっと言わせるような一面を引き出せない。どう工夫すればいいかな。」などのように、自らの学習状況を振り返り、「きくこと」について試行錯誤するような学びにつながっていきます。

インタビューしたことを基に友達の魅力を伝え合う活動については、例えば朝のショートスピーチとして位置付けることもできます。その後に紹介された友達との「雑談タイム」を設けると、「その友達ともっと話してみたくなる紹介にしたい」という思いにつなげることができるでしょう。

**指導事項** 〔知識及び技能〕（2）イ 〔思考力、判断力、表現力等〕A（1）エ **言語活動例** イ

## 2 単元の展開（6時間扱い）

| 次 | 時 | 主な学習活動 |
|---|---|---|
| 一 | 1 | ◎学習課題を設定し、学習計画を立てる。<br>**学習課題** 目的や意図とつなげてインタビューの話し方を工夫し、聞き合ったことを基に友達のみりょくを伝え合おう。 |
| 二 | 2～5 | ◎話題を絞り、質問と予想される答えを話し合う。<br>◎インタビュー活動に取り組む。（アイディア①②）<br>・聞き手と記録者で練習しながら、質問の仕方を見直す。<br>・よりよい質問の仕方について話し合う。<br>・実際にインタビューをする。<br>◎インタビューの内容を報告し合い、気付いたことを伝える。 |
| 三 | 6 | ◎教科書の『たいせつ』を視点として「きくこと」についての相互評価を行い、単元の学習を振り返る。（アイディア③） |
| 朝自習等 | | ◎インタビューの記録を基に、友達のみりょくを伝え合う。 |

## アイディア① 学習課題を視点に「納得度」を振り返り、次への見通しをもつ

主体的な学び

上述した「『きくこと』について試行錯誤するような学び」を生み出していくためには、共通の「めあて」と「まとめ」だけではなく、自分のインタビューの練習や実際のインタビューの状況について振り返り、その振り返りを基に一人一人が自分なりのめあてをもつことが必要です。

しかし、ただ「振り返りを書きましょう」と指示をするだけでは、次への見通しにつながる振り返りにはなりません。

そこで、単元の学習課題を視点に自分自身の「納得度」での振り返りを行います。具体的には「友達の魅力を伝え合う」という目的に向けて、「魅力を引き出す」意図をもったインタビューができたかを数値で自己評価し、その理由を記述していくことで、「ここをよりよくしたい」、「次はこんな工夫をしてみよう」などの見通しにつなげていきます。

振り返りの記述例

**〈振り返り〉**

目的や意図とつなげて インタビューの話し方を工夫できたか？→70点

**〈理由〉**

- 聞きたいことをはっきりさせて行うことができたから、友達の好きなことを引き出すことができた。
- 残りの30点は、もう少し話の流れにそって質問できるようになりたい。

## アイディア② 「うまくいかなかったこと」の解決策を話し合う

対話的な学び

アイデア①で述べた「学習課題を視点にした振り返り」に取り組んでいくと、「うまくいかない」、「どうすればいいだろう」などの困りごとが浮かび上がってきます。そこで、各グループの中で生じた困りごとを全体で取り上げ、どうすれば解決できるかについて話し合わせていくと、必要感を伴った「対話的な学び」につながっていくでしょう。

その際、タブレット端末等を活用して各グループの練習や実際のインタビューの様子を撮影しておき、映像を基に困りごとを共有すると、聞き手や話し手の具体的な言葉に立ち止まりながら話し合うことができます。その中で、話し手の反応に合わせて臨機応変に質問の順番を変えたり、反応を基に新たな質問を付け加えたりするようなインタビューの仕方を共有していきます。

## アイディア③ 実際のインタビューの言葉を基に『たいせつ』を具体化する

深い学び

アイデア①②を繰り返す中で、一人一人の子供はそれぞれ言葉による見方・考え方を働かせています。さらに「自分がどの言葉の意味や働き、使い方等に着目し、どのようにインタビューの言葉を吟味していったか」についての自覚を高めていくことで、深い学びの実現へとつなげていくことができます。

そのために、教科書の『たいせつ』を視点として、学習課題の達成に有効だった質問や受け答えの仕方などを振り返っていきます。それぞれの立場の『たいせつ』に沿ってグループで相互評価を行い、それを全体で紹介し合う中で、実際のインタビューに用いた言葉を価値づけ、『たいせつ』を具体化していきます。

子供の言葉で作る掲示物の例

**〈A君・Bさんのインタビュー〉**

A いつからサッカーを始めたんですか。
B 五歳の頃からです。兄がサッカーをしていたのに憧れて始めました。
A もう五年も続けているんですね。なぜそんなに長く続けられるんですか。
B サッカーが好きだからです。
A サッカーのどんなところが好きなんですか。
B そうですね……。

☆質問の意図を考え、きっかけまで話している。

★相手の話を受け止める言葉「～なんですね」

★話の流れで新たに生まれた質問「なぜそんなに～」「どんなところが」

（★話し手　☆聞き手）

「誰が・どんな言葉を・どんな状況で」使ったかを子供の言葉で残しておくと、他単元・他教科等での活用にもつなげることができる。

# 5年 4月 算数科

単元名

# 直方体と立方体の体積


執筆 新潟県新潟市立万代長嶺小学校教諭 内山 大樹
編集委員 文部科学省教科調査官 笠井 健一
新潟県新潟市立新津第三小学校校長 間嶋 哲


**年間指導計画**

| 月 | 単元 |
|---|---|
| 4/5 月 | **直方体と立方体の体積** |
| | 小数のかけ算 |
| 6/7 月 | 小数のわり算 |
| | 合同な図形 |
| 8/9 月 | 整数の性質（偶数・奇数、倍数・約数） |
| | 分数のたし算とひき算 |
| 10/11 月 | 平均・単位量あたりの大きさ |
| | 図形の面積 |
| 12/1 月 | 割合 |
| | 帯グラフと円グラフ（主に活用に視点をおく） |
| 2/3 月 | 正多角形と円 |
| | 角柱と円柱 |

## 本時のねらいと評価規準 （本時の位置 1/10 時）

**ねらい** 箱を直接重ねたり、任意単位で敷き詰めたりする活動を通して、立体の大きさ比べでは任意単位のいくつ分を数えればよいことに気付く。

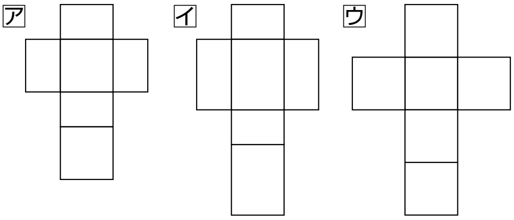
**評価規準** 任意単位で敷き詰める大きさ比べの方法に気付く。

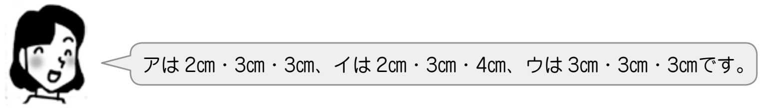
**問題場面**

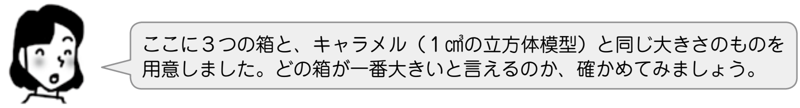
スーパーマーケットで箱にキャラメルを詰め放題できるイベントをやっていました。次の３種類の箱の展開図のうち、どれか一つを組み立てて、詰めるというものでした。

**ポイント**

実物よりも 10 倍に拡大した３種類の展開図を提示して、問題場面のイメージをもたせる。また、最初に辺の長さを示さないことで、辺の長さに着目させ、実物で比べてみたいという意欲を引き出す。

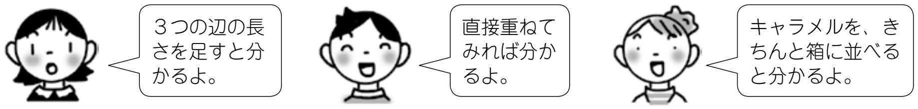







**本時の学習のねらい** 箱の大きさはどのようにすると比べることができるだろうか。

**見通し**



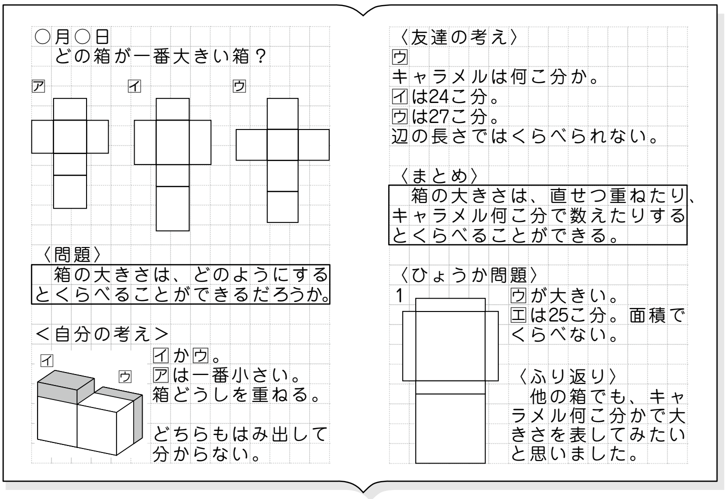

**自力解決の様子**

| A つまずいている子 | B 素朴に解いている子 | C ねらい通り解いている子 |
|---|---|---|
| 「辺の長さを足すと、ア 8㎝、イ 9㎝、ウ 9㎝。イとウ」<br>・辺の長さから考えている子 | ア、イ、ウを重ね、アが小さい。イかウかは分からない。<br>・直接比較で考えている子 | 「キャラメルの数を数えると、ウが一番多いからウ」<br>・任意単位で考えている子 |

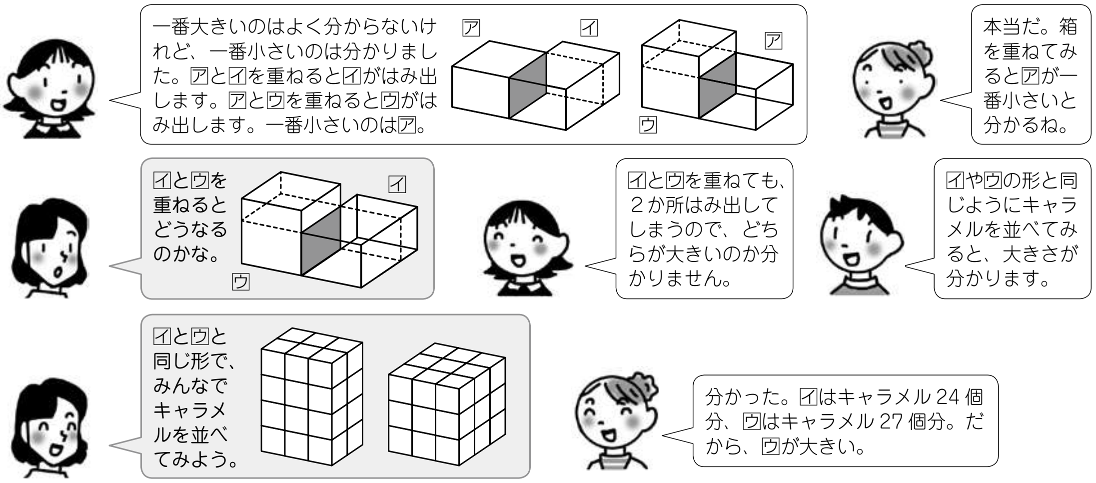
## 学び合いの計画

立体の大きさを児童はどのように捉えているでしょうか。Ａのように「３つの辺の長さを足した長さが長いほど立体は大きい」と考えたり、「展開図が広い（表面積が大きい）ほど立体は大きい」と考えたりする子供は少なからずいます。授業導入部で展開図だけを提示することで、Ａのような誤った認識を表出させることができます。もし出なかったとしても、授業終末部で「辺の長さが長いほど、立体は大きいかな」と教師からゆさぶりをかけることで、体積の確かな理解につなげることができます。

## ノート例

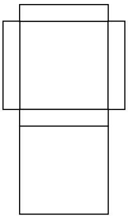



## 全体発表とそれぞれの考えの関連づけ




## 学習のねらいに正対した学習のまとめ

箱の大きさは、直接重ねたり、キャラメル何個分かで数えたりすると比べることができる。



**本時の評価問題**

ここにもう一つの箱エ（5㎝、5㎝、1㎝）があります。ウの箱とどちらが大きいでしょうか。

**【子供に期待する解答の具体例】**

キャラメル何個分かで考えると、エの箱はキャラメル 25 個分なので、ウの箱の方が大きい。

**【本時の評価規準を達成した子供の具体の姿】**

ウとエの箱について、キャラメルの個数に置き換えて箱の大きさを比べることができる。

## 感想例

今日は箱の大きさ比べをしました。最初は重ねたときに２か所はみ出ているものは比べられないと思っていたけれど，キャラメルの個数で考えればよいことが分かりました。他の箱でもキャラメル何個分で大きさを表してみたいと思いました。

# 5年 5月 算数科

単元名

# 小数のかけ算

執筆　新潟県新潟市立万代長嶺小学校教諭　清野　佳子
編集委員　文部科学省教科調査官　笠井　健一
新潟県新潟市立新津第三小学校校長　間嶋　哲

**年間指導計画**

| | |
|---|---|
| 4/5月 | 直方体と立方体の体積 |
| | **小数のかけ算** |
| 6/7月 | 小数のわり算 |
| | 合同な図形 |
| 8/9月 | 整数の性質（偶数・奇数、倍数・約数） |
| | 分数のたし算とひき算 |
| 10/11月 | 平均・単位量あたりの大きさ |
| | 図形の面積 |
| 12/1月 | 割合 |
| | 帯グラフと円グラフ（主に活用に視点をおく） |
| 2/3月 | 正多角形と円 |
| | 角柱と円柱 |

## 本時のねらいと評価規準　（本時の位置　1/9時）

**ねらい**　リボンを2.3ｍ買ったときの代金について乗法のきまりや数直線を用いて表すことを通して、既習の倍の見方を活用して考え、小数をかける意味について説明している。

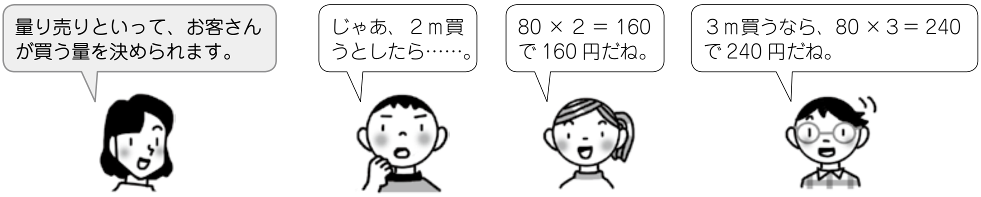
**評価規準**　（整数）×（小数）になる場面について立式し、その意味について、言葉と数直線で表すことができる。

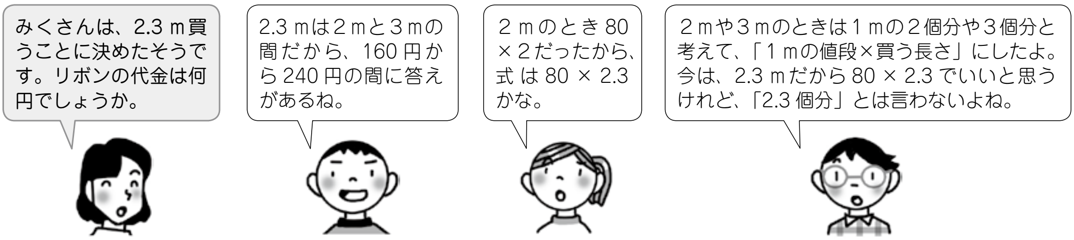
**問題場面**

みくさんたちは、手芸クラブで使うリボンを買いにきました。
どのリボンも1m80円で売っていて、何m買うかを考えています。

**ポイント**

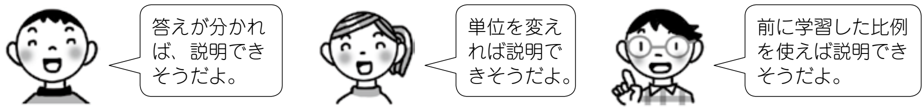
実物のリボンや紙テープなどを提示して、問題場面のイメージをもたせる。また、子供たちに幾つかの長さの場合を想定させ、互いに答えさせながら、長さが変わると値段が変わることを把握させる。




**本時の学習のねらい**　80に「× 2.3」するとは、どういう意味なのだろう。

**見通し**




**自力解決の様子**

**A　つまずいている子**
「80 × 2.3を逆にしても答えは同じだから、2.3 × 80を計算してみよう」
- かけ算のきまりを使い、代金を出してから考える子

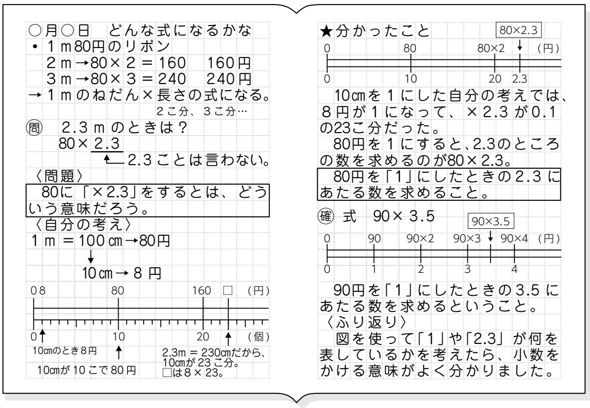
**B　素朴に解いている子**
「１ｍで80円ということを100㎝で80円と変えて、考えてみよう」
- 長さの単位を変えて考えている子

**C　ねらい通り解いている子**
「リボンの長さが２倍、３倍…になれば代金も２倍、３倍…になることを使って考えてみよう」
- 比例関係で考えている子

## 学び合いの計画

　Ａが求めた積とＢが用いた図とを対応させることで、積の正しさを確認したり、乗数が × 1.1、× 1.2…のように小数で変化するときに、積も変化することを理解することができます。さらに、ＢとＣの説明を比べることで、何を「１」とするかを決めれば、（整数）×（小数）の意味を説明できそうだという見通しをもつことができます。Ｃの説明には、４学年で学習した倍の意味の理解が欠かせません。必要に応じて、簡単な小数倍の場面を提示して内容の確認をしましょう。

## ノート例


○月○日　どんな式になるかな
・１ｍ80円のリボン
　２ｍ→80×２＝160　160円
　３ｍ→80×３＝240　240円
→１ｍのねだん×長さの式になる。
２こ分、３こ分…
㊐ 2.3ｍのときは？
　80×2.3
　2.3ことは言わない。
〈問題〉
80に「×2.3」をするとは、どういう意味だろう。
〈自分の考え〉
１ｍ＝100㎝→80円
↓
10㎝→８円

★分かったこと

10㎝を１にした自分の考えでは、８円が１になって、×2.3が0.1の23こ分だった。
80円を１にすると、2.3のところの数を求めるのが80×2.3。
80円を「1」にしたときの2.3にあたる数を求めること。
㊍ 式　90×3.5

90円を「1」にしたときの3.5にあたる数を求めるということ。
〈ふり返り〉
図を使って「1」や「2.3」が何を表しているかを考えたら、小数をかける意味がよく分かりました。

## 全体発表とそれぞれの考えの関連付け

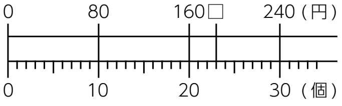
**アの考え**

80 × 2.3 ＝ 2.3 × 80
　　　　 ＝ 184

　184円は、2ｍの160円と、3ｍの240円の間だから、正しいのではないかな。

**イの考え**

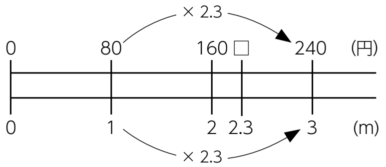
100㎝で 80 円→ 10㎝で８円
2.3m ＝ 230㎝→ 10㎝の 23 個分
だから 0.1 ｍなら、8円が 23 個分で、□は８× 23 だよ。




※下の線分は 10㎝で一目盛りを表す

**ウの考え**

リボンの長さが２倍、３倍になれば、代金も２倍、３倍になる。だから、長さが 2.3 倍になれば代金も 2.3 倍ということだよ。



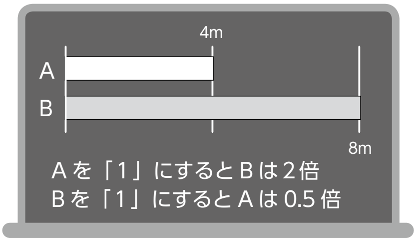
アとイを見ると、2.1 ｍ、2.2 ｍ…のように、リボンの長さが小数のときも代金は少しずつ増えていくね。

イのように「0.1 ｍで８円」を一つ分とすると、整数のときと同じように「○個分」といえるね。

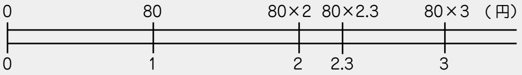
何を「１」にするかで「×2.3」の意味が変わるんだね。

「○倍」というときにも，何を「１」にするかで「倍」が変わったよね。ウは、「１ｍで 80 円」を「１」にしているよね。

「80 × 2.3」 は、80 円を「１」にしたとき、2.3 にあたる代金ということだね。



分かったことを図にすると、下のように表せますね。




## 本時のねらいに正対した学習のまとめ

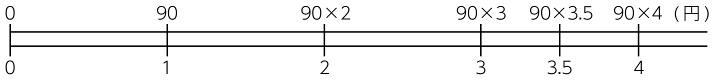
80 を「1」にしたときの 2.3 にあたる数を求めるということ。

**本時の評価問題**

　１ｍ 90 円のリボンを 3.5 ｍ買うときの代金は、どんな式で求められますか。また、その式はどういう意味ですか。言葉と図で説明しましょう。

**【子供に期待する解答の具体例】**

式は 90 × 3.5 になります。
90 円を「1」にしたときの 3.5 にあたる数を求めるということです。




**【本時の評価規準を達成した子供の具体の姿】**

「90 × 3.5」と立式をし、その意味を言葉と図で記述することができる。

## 感想例

　小数の場合でも、整数と同じようにかけ算の式にできることが分かりました。「×小数」は何個分とはいえないけれど、「1」にするものを決めて、「いくつ」にあたるかを求めているといえます。小数をかける計算も整数に直して計算できそうです。

# 5年 4月 体育科

単元名
目指せ自己ベスト！
## 体の柔らかさや巧みな動きを高める
### 体つくり運動（体の動きを高める運動）

執筆 北海道札幌市立福住小学校教諭 山﨑 稔英
編集委員 国立教育政策研究所教育課程調査官 塩見 英樹
北海道札幌市立幌南小学校校長 大牧 眞一

**年間指導計画**

| 月 | 単元 |
|---|---|
| 4/5 月 | 体つくり運動（体の動きを高める運動） |
| | 陸上運動 |
| 6/7 月 | ボール運動 |
| | 水泳運動 |
| 8/9 月 | 器械運動 |
| | 陸上運動 |
| 10/11 月 | 器械運動（マット運動） |
| | 体つくり運動（体の動きを高める運動） |
| 12/1 月 | 器械運動（跳び箱運動） |
| | ボール運動（ゴール型） |
| 2/3 月 | 表現運動 |
| | ボール運動（ネット型） |

## 授業づくりのポイント

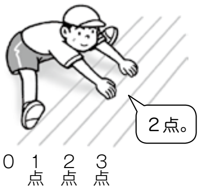
高学年の体つくり運動は、「体ほぐしの運動」と「体の動きを高める運動」で構成され、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、中学年までに身に付けた体の基本的な動きを基に、様々な体の動きを高めるための運動です。特に、高学年の「体の動きを高める運動」は、直接的に体力の向上を目指すものとし、子供一人一人が運動の楽しさを味わいながら、自己の体力に応じた課題をもち、「体の柔らかさ」「巧みな動き」「力強い動き」「動きを持続する能力」を高めるための運動を行うこととしています。

今回は、発達の段階を考慮し、重点を置いて指導することとしている「体の柔らかさ」と「巧みな動き」を高める運動を取扱います。体の柔らかさを高める運動では、伸びが実感できるように数値化をして学習カードに記録します。巧みな動きを高める運動では、運動を工夫する視点を明確にすることで、楽しみながら自分に合った運動にすることを大事にします。また、子供が目標をもつためには、自分の体力の実態を知ることが効果的です。体育の授業や日々の運動遊びの様子などを学習カードに記入し、自分の体力の実態を把握できるようにします。

## 楽しもう「目標をもって取り組み記録を伸ばそう」

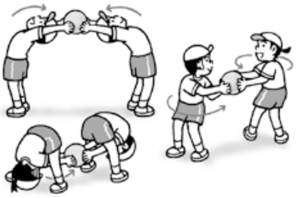
**体の柔らかさを高める運動**

○徒手での運動

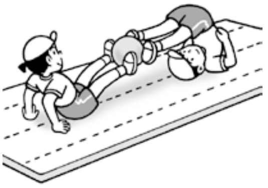



息を吐きながら取り組むと記録が伸びます。

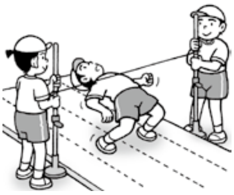
○用具などを用いた運動



ボールを上や下から渡します。上下・左右を交互に行っても楽しいです。



イラストのようにボール渡し、リレー形式で取り組むと楽しく柔軟性を高めることができます。



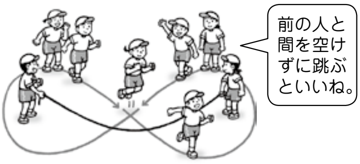
走り高跳び用の支柱とゴム紐を使うと簡単に行うことができます。

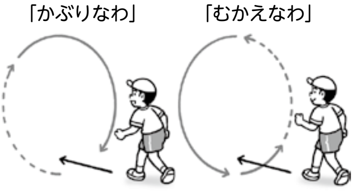
※床板の間の数や行った回数、クリアできた高さを毎回記録することで、意欲が高まります。

## 楽しもう「運動を工夫して巧みになろう」

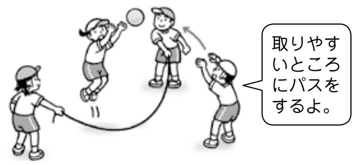
**巧みな動きを高める運動**

○８の字跳び

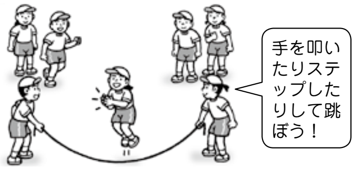


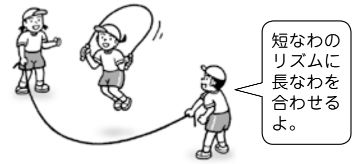

○長なわとボールを使った運動



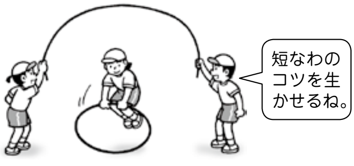

○長なわの跳び方を工夫する運動




○長なわと短なわを使った運動




○長なわとフラフープを使った運動



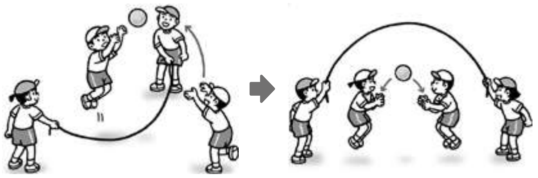
## 単元計画

| 時間 | 1 | 2・3 | 4・5 |
|---|---|---|---|
| 学習課題 | 柔ら・巧みタイムの内容を理解しよう | 柔らタイム…もっと記録を伸ばそう<br>巧みタイム…運動の行い方を工夫して巧みになろう | 巧みタイム…運動の行い方を工夫して、もっと巧みになろう |
| 0<br>↓<br>45分 | ●オリエンテーション<br>・自分の体力を知る<br>※事前に、学習カードに体育学習や運動遊びの様子を記入して実態をつかむ<br><br>●安全に関する指導<br><br>●「柔らタイム」の内容を知り、実際に試す<br>・徒手での運動<br>・用具などを用いた運動<br><br>●巧みタイムの内容を知り、８の字跳び（かぶりなわ）に取り組む<br>・長なわとボールを使った運動に挑戦する | 【柔らタイム】２時間目　※３時間目以降も継続して【柔らタイム】に取り組む<br>もっと記録を伸ばすにはどうしたらいいかな<br>○記録を伸ばすコツを意識して取り組む<br>・徒手での運動→息を吐きながら行う<br>・用具などを用いた運動<br>→タイミングを合わせて渡す<br>お腹と太ももに力を入れる<br><br>【巧みタイム】３時間目<br><課題を見付ける活動><br>○８の字跳びの記録を伸ばそう<br>・かぶりなわで跳ぶ→むかえなわに挑戦<br>なわを回す方向を変えると難しくなる<br>○ボールと長なわを使って跳ぼう<br>・なわの中に入る人数を１人から２人にする<br>運動の行い方を変えると難しくなる<br>巧みさを高めるためにはどんな工夫をすればよいかな<br>○運動を工夫する視点を確認する<br>・人数、回数、距離、時間、姿勢、用具、方向などを変化させる<br>○運動の行い方を工夫する<br>・タイミング、バランス、リズムの大切さへの気付きを促し、全体で確認する | 【巧みタイム】<br>○８の字跳びの記録を伸ばそう<br>・むかえなわで跳ぶ<br><br>○目標回数（10回程度）を設定して取り組む<br><br>○長なわとボールを使った運動<br>・ボールやなわに入る人数を増やす<br>・ボールを持って、なわに入ってパスをする<br><br>○長なわと短なわを使った運動<br>・後ろ回しや交差跳びをする<br>・短なわの代わりにフラフープで行う<br>・長なわ２本でダブルダッチに挑戦する<br><br>○長なわを工夫して跳ぶ運動<br>・グーチョキパーのステップを踏む<br>・なわの中で回転しながら跳ぶ<br>・なわの中に入る人数を２人に増やしてステップを合わせて跳ぶ<br><br>○グループごとに工夫した跳び方を紹介する |
| | 振り返りの活動　（レーダーチャートを完成させ、伸びたことを振り返ったり、次の目標を設定したりする） | | |

## もっと楽しもう　「運動を工夫してもっと巧みになろう」

単元の後半は、運動を工夫する視点（人数、回数、距離、時間、姿勢、用具、方向などを変化させる）を子供と確認し、巧みな動きを高める工夫を促します。また、工夫した運動が自分に合っているかを判断できるよう、例えば10回できたら合格という基準を設けます。そうすることで、子供は、10回できなさそうな場合は運動を易しくし、10回以上できればばもっと運動を難しくします。振り返りの活動では、学習カードを活用して自分の伸びをレーダーチャートに表していきます。レーダーチャートを使うと自分の伸びが可視化されるので、意欲やその後の運動の質の高まりが期待できます。

### 課題を見付ける活動について

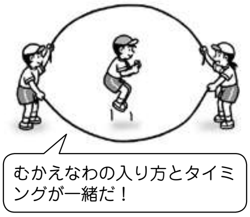


課題を見付ける活動では、なわの中に入る人数を１人から２人に変化させます。１人の時と比べて運動が難しくなっていることを実感させ、「もっと巧みさを高めるために運動を工夫したい。」という思いを引き出します。

運動を工夫する際には、人数や回数などの他にも、「リズム」「タイミング」「バランス」に着目できるようにすることで、動きのコツに意識が向かい、課題解決を目指す学習になります。

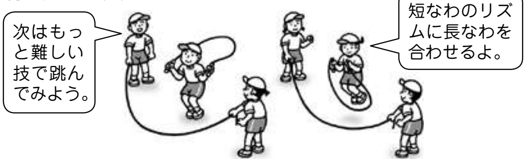
### 運動を工夫する例

用具の数を増やす




人数を増やす

跳び方を工夫する




### 主体的に学ぶ態度を育む学習カードの例

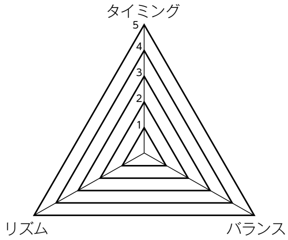
**体の柔らかさセルフチェック**

○体育の学習や遊びから

| 運動 | 内容 | ◎ | ○ | △ |
|---|---|---|---|---|
| マット運動 | 開脚前転・開脚後転 | | | |
| 走り高跳び | はさみ跳び | | | |
| 表現 | ソーラン節を踊る | | | |
| 体つくり運動 | ストレッチング | | | |
| 遊び | リンボーダンス | | | |

体育授業や運動遊び等での様子をカードに記入し、自分の体の柔らかさなど体力の実態をつかみます。

**今の自分の巧みな動きメーター**




レーダーチャートを使用して毎時間記録することで、伸びが可視化されるので、意欲や運動の質が高まります。

**5年 5月**
# 体育科

単元名
## 仲間と協力してタイムを縮めよう！
# 速さをつなげペアリレー
### 陸上運動（短距離走・リレー）


執筆 北海道札幌市立北九条小学校教諭 村上 雅之
編集委員 国立教育政策研究所教育課程調査官 塩見 英樹
北海道札幌市立幌南小学校校長 大牧 眞一


**年間指導計画**

| | |
|---|---|
| 4/5月 | 体つくり運動（体の動きを高める運動） |
| | **陸上運動** |
| 6/7月 | ボール運動 |
| | 水泳運動 |
| 8/9月 | 器械運動 |
| | 陸上運動 |
| 10/11月 | 器械運動（マット運動） |
| | 体つくり運動（体の動きを高める運動） |
| 12/1月 | 器械運動（跳び箱運動） |
| | ボール運動（ゴール型） |
| 2/3月 | 表現運動 |
| | ボール運動（ネット型） |

## 授業づくりのポイント

「リレー」は、仲間と速さを競い合ったり、記録に挑戦したり、自分の課題を解決しようと工夫したりするなどの楽しさや喜びを味わうことができる運動です。リレーは勝敗を伴うことから、勝敗を受け入れることができるようにするとともに、どの子供にも勝つ機会があるようにルール等を工夫することが大切です。

この単元では、リレーに重点を置きながらも短距離走と組み合わせて取扱うことで、効果的に資質・能力を育成していくことを目指します。リレーでは、ペアの仲間との合計タイム（課題タイム）を、協力して縮めていくことを目標にします。まず、子供一人一人の40 m走のタイムを測定します。そして、ペアの仲間と40 m走のタイムを合計します。その後、80 mを走り、２人の合計タイムをどれだけ縮められたかを競います。また単元の後半では、ペアの仲間を変えて、新しいペアの課題タイムを縮めることを目標にして取り組みます。

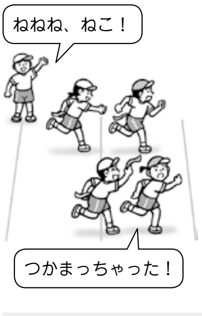
テークオーバーゾーン内で減速の少ない滑らかなバトンの受渡しを行うために、考えたことを仲間に伝えながら課題を解決していく姿を目指します。

## 楽しもう「タイムを縮められるかな？」

単元の前半では、どのペアも合計タイムが同じになるように、教師が決めたペアでリレーを行います。ペアの仲間を変えずに取り組むことで、練習したことを積み重ねることができます。さらに、１グループ４人で構成し、グループ内に２つのペアができるようにします。ペア同士でタイム測定の役割を分担したり、互いのペアの課題を見付け、解決に向けて協力したりすることができるようにします。

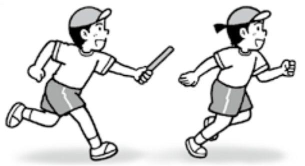
### 準備運動でやってみよう！

○ねことねずみ



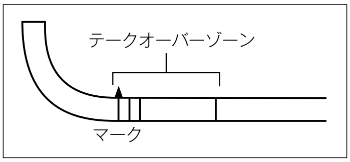

ねことねずみチームに分かれ、呼ばれたチームが相手を追いかけます。ラインにつく前にタグを取ることを目指します。

### バトンの受渡しの例



交差しないように、バトンを渡す人は左手（もしくは右手）で渡し、受け取る人は右手（もしくは左手）で受け取ります。バトンを渡す人が「はい！」と合図したら、手を後ろへ伸ばします。

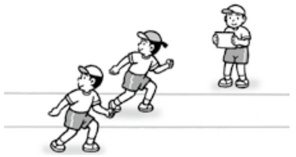
### 走るコースの設定例




１人40～60 mが走れるようにします。テークオーバーゾーン（10～15 m程度）は直線にします。テークオーバーゾーンの入り口には、スタートのタイミングを取りやすくするためのマークを置きます。

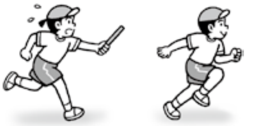
## 自己やペアの課題を見付け、練習方法を選ぼう

### 課題の見付け方の例



自己や仲間の走りの様子をタブレット等の ICT 機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己やペアの課題を見付けます。

### 課題と練習方法の例



渡し手が追いつかない。
↓
マークを近くに置いて練習し、適切な走り出すタイミングを見付ける。

渡し手がすぐに追いつく。
↓
マークを遠くに置いて練習し、適切な走り出すタイミングを見付ける。

バトンをうまく渡せない。
↓
バトンをもらう手の高さや手の向きを決めて練習する。

## 単元計画

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学習課題 | 短距離走・リレーの行い方を知り、学習の見通しをもとう。 | 自己やペアの課題を見付け、解決するための練習方法を選ぼう。 | | ペアの友達を変えて、課題タイムを縮めよう。 | いろいろな競走の仕方でリレーをしよう。 |
| 0 | **●準備運動**<br><br>**●オリエンテーション**<br>・学習の進め方を知る。<br><br>**●安全に関する指導**<br><br>**●課題タイムの設定**<br>・体を軽く前傾させて全力で走る。<br>・ペアの仲間を確認する。<br>・40 m走のタイムを測定する。<br>・２人の 40 m走のタイムを合計する。<br><br>**●ペアでリレーを行う**<br>・走るコースを確認する。<br>・測定の役割分担を確認する。 | **【準備活動】○用具の準備　○体操　○ウォーミングアップ（ねことねずみ　いろいろなスタートの姿勢で走る、等）**<br><br>**○課題を見付ける活動**<br>・４人一組になり、互いに運動を見合い、課題を見付けていく。<br>・運動を見て、見付けた課題を仲間に伝える。<br>［タイムを縮めるにはどうしたらいいかな？］<br><br>［課題を解決するための練習方法を選ぼう。］<br>**○体を軽く前傾させて全力で走ることを生かしながら、減速の少ないバトンの受渡しの仕方についての自己やペアの課題に応じた練習方法を選ぶ。**<br>・渡し手が追いつかない。<br>→マークを近くに置く。<br>・渡し手がすぐに追いつく。<br>→マークを遠くに置く。<br>・バトンをうまく渡せない。<br>→バトンをもらう手の高さや手の向きを決める。<br>［タイムを測定しよう。］［他のグループと競走して成果を確かめよう。］ | | ［ペアの仲間を変えても、タイムを縮めるにはどうしたらいいかな？］<br>**○課題を見付ける活動**<br>・運動を見合い、課題を見付けていく。<br>・課題を仲間に伝える。<br>［課題を解決するための練習方法を選ぼう。］<br>**○自己やペアの課題に応じた練習方法を選ぶ。**<br><br>［タイムを測定しよう。］ | **○いろいろな競走の仕方について知る。**<br>・競走の仕方を確認する。<br>・走るコースを確認する。<br>・測定の役割分担を確認する。<br>・互いに気持ちよく終わることができるように、勝った時、負けた時の態度について確認する。<br><br>**○いろいろな競走の仕方でリレーを行う。**<br><br>※最後に、40 mのタイムをもう一度測定し、短距離走の伸びを実感できるようにすることも考えられる。 |
| 45分 | **振り返り活動**（学習カードに、課題を解決するために考えたこと、仲間のよい動き等を記入する） | | | | |

## もっと楽しもう 「ペアを変えてもタイムを縮められるかな？」

単元の後半は、グループ内でペアを変えて、新しく設定した課題タイムを縮めることを目指していきます。ペアが変わっても、単元の前半で学習した減速の少ないバトンの受渡し方を活用して、課題を解決していくことを目指します。単元の最後には、他のグループと競走することで、競い合う楽しさや喜びを味わうとともに、学習の成果を確かめることができるようにします。

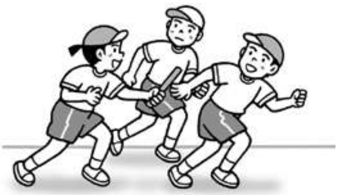
### いろいろな競走の仕方の例

○縮まったタイムを点数化し、他のチームと競走する。

| 課題タイムとの差 | 得点 |
|---|---|
| － 0.1 秒 | 1 点 |
| － 0.2 秒 | 2 点 |
| － 0.3 秒 | 3 点 |
| － 0.4 秒 | 4 点 |
| － 0.5 秒 | 5 点 |

課題タイムからどれだけ縮まったのかを点数化し、得点が高いペアが勝ちです。

### 協働的に解決するために

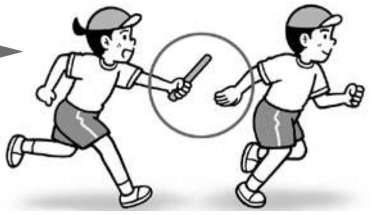


解決に向けて練習する際には、同じグループの仲間に自己やペアの課題を伝えるようにすることで、見る視点がはっきりし、互いにアドバイスしやすくなります。

### 課題を解決する過程が見える学習カードの例

**減速の少ないバトンの受渡しにするには、どうしたらよいのかな？**

減速の少ないバトンの受渡しをするために、大切だと思うポイントをイラストに書きましょう。



自己やペアの課題を、イラストに書き込むことで、自分の課題を捉えることができるようにします。

**自分たちの課題はどれ？**

| ①バトンを渡す人がなかなか追いつかない。 | ②バトンを渡す人にすぐに追いつかれてしまう。 | ③バトンをうまく渡すことができない。 |
|---|---|---|
| ↓ | ↓ | ↓ |
| ①マークを遠くに置いて、スタートするタイミングをつかもう。 | ②マークを近くに置いてスタートするタイミングをつかもう。 | ③バトンをもらう手の位置の高さや手の向きを決めて練習してみよう。 |

学習カードには、自己やペアの課題をどのように捉えているのか、また、選んだ練習方法についてどのように考えているのか等を書けるようにします。そうすることで、子供の課題を解決する過程を教師も把握することができ、評価や次の学習指導へ生かすことができます。